

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	高等教育推進センター(教務機構)
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 大学の中長期計画に基づき、全学的なFDの推進、教育のICT化を強化するため、教員採用(専任1名、任期制3名)を行う。	→年次計画通りの教員採用		B	B	B	B
2. センター教員、および、教育技術主事の担当業務の構築を行う。	→担当業務の明文化		C	C	B	B

☆

2011年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 採用人事委員会を設置し、2011年度に任期制教員(ICT担当)1名、2013年度に任期制教員(高等教育担当)1名、計2名を採用した。その間、中期計画で割り当てられていた専任教員1名枠については凍結された。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教員採用の状況については上記の通りである。 センターへの専任教員枠をどうするか、また、高等教育推進センターは授業提供を行っていないため、担当授業の割当をどうするか、という課題が教員採用の都度生じている。これ以外に、センター所属の教員は、授業以外に、センター運営業務に携わることも多く、授業の減免措置などを講じる必要もあると考えている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2013年度の機構化により、ICT関連業務がセンター所管業務から移管されたため、当初の中期計画については、採用計画の見直しが必要となった。今後、新中期計画(後期)に基づき、担当業務の見直しを行った上、採用計画を進める。	☆
		その他	
			☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度より、高等教育推進センター運営委員会において、複数のWGを設置することを決定した。執行部、教員、任期制教員、職員をそれぞれのWGに配置することにより、担当業務を明確化した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 毎年4月に新年度の課題に応じてWGの継続や新規設置に関して、運営委員会で検討し、各WGへのメンバーのアサインを行っている。 センターの構成員が少なく、いずれのWGにおいても、メンバーが重複する傾向になることが課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 高等教育推進センターの設置以降、従来、研究の一環として行ってきた各種調査を、所管業務と位置づけ、教職協働により実施している。上記のWGのほとんどが、調査の実施やIRに関するものとなり偏りがみられ、アサインするメンバーにも偏りが生じており、解消に向けた対応が必要である。	☆
		その他	
			☆
備考			☆